

1997年における東芝の技術成果

1997年 技術成果号の発行にあたって

専務取締役
笠見 昭信



市場構造のダイナミックな変化とグローバルなメガコンペティションの激流の中で、流れの先を読み流れにタイムリーに乗ると同時に、自分で流れを造ることが勝ち抜くための重要な要素になってきました。このためのコアコンピタンスをより強く意識し、それを支えるコア技術の強化・深耕と、これを成し遂げる人材とそのネットワークの構築が新たなR&Dマネジメントとなります。また、グローバルな視野でのR&D協業も、開発を加速し新たな価値を付加するうえで必須となってきています。

200X年の当社の姿を技術をベースに皆様に訴求する“Tomorrow 21 東芝技術展”を昨年3月に開催しましたが、6万人を超える多方面の方々にご来場いただき貴重なご意見と励ましをいただきました。現在、技術展の成果をタイムリーに商品化していくことを精力的に進めており、新しい価値やサービスを提供していきたいと考えています。小型携帯パソコンとして人気のあるLibrettoのシリーズ化を強化し、情報提供サービス“駅前探検クラブ”と携帯情報端末GENIO_{TM}も発売しました。今後、新しい画像圧縮技術とも組み合わせたモバイル環境での映像情報サービスにより力を注いでいきます。次世代インターネット用高速ルータであるセルスイッチルータは、他社との連携を強めるとともに米国市場の開拓のためボストンにEnnovate Networks Inc.を7月に設立しました。タイムワナー社と協力して米国で展開しているPC on Lineも大きく進展してきました。また、0.25 μ mを用いた最小チップサイズの64MビットシンクロナスDRAMを商品化し、次世代高速パソコン対応のメモリとして期待しています。

一方、注力事業分野でのコア技術をより強化育成するためのR&D体制の再編も臨機応変に行っています。昨年4月には、システムオンシリコンの中核となるコンピュータオンシリコン技術を開発するCOS開発センターを情報システム技術者と半導体技術者を結集して作りまし、横浜地区で本格稼働になりました新クリーンルームに合わせて、研究開発センターとマイクロエレクトロニクス技術研究所の研究者が結集し、ギガビット級LSIの研究開発を加速しています。また、ポリシリコンTFTの事業化をねらって深谷地区に液晶開発センターを設立し、研究部隊と開発部隊が結集しました。6月には、無線技術をより強化するためワイヤレス・テクノロジー開発センターにシステム技術者とデバイス技術者が集結しました。

以上、ダイナミックに変化する市場に対応していく当社の技術施策の一端を述べましたが、昨年の具体的な技術成果は本文をご一読いただきたいと思います。皆様のご助言、ご指導をいただきたくお願い申し上げます。